

「理科教育のあゆみ」第54の発刊に寄せて

宮城県連合小学校教育研究会

理科研究部会長 鶴谷 研

東日本大震災からまもなく5年の月日がたとうとしています。復興が進む一方で、地域によっては人口減少等による統廃合が進み、学校や学級数の減少が進んでいます。会員数の減少など各地区さまざまな困難を抱えながらも、今年度も理科研究部会は理科教育に携わる先生方の努力と創意工夫により研究が熱く進められました。

今年度の宮城県小学校理科教育研究大会は仙台地区において塩竈市立第一小学校で開催されました。公開授業では自作教材を校内の先生方で開発され、それに基づいた授業が提案されました。また、仙台大会実行委員長の志賀保史校長先生を中心とした仙台地区の先生方による工夫された大会運営は、参観者にとって研修が深まり実りある1日となりました。大会に携わった先生方の熱意に敬意を表すると共にその努力に深く感謝申し上げます。

さて、「理科教育のあゆみ」は今年で54集を数えることになりました。2度の大地震にも負けず理科教育の実践が綴られ続けてきたことに、宮城県小学校理科部会の歴史と伝統の重さを強く感じます。今年度の「理科教育のあゆみ」に目を通すと各地

区で理科教育の教材研究や授業実践が進められていることをうかがうことができます。きっと小学校における理科教育の楽しさを多くの先生方が実感することに繋がります。若い世代の先生方にとっては明日の授業への意欲に繋がったものと思います。地区の中でベテランが若手に伝える理科のOJTが展開され、うれしい限りです。

昨年の9月に宮城県内でも豪雨によって河川の氾濫が発生し、地域に大きな災害をもたらしました。新しい教科書に掲載されている災害から生命を守る学習内容がまさに喫緊の課題となった災害でした。理科の学習は生活と密接にかかわり、児童には知識を獲得しながら適切な判断や行動へも繋げる学びが求められるところです。

今年度からは教科書の一部改訂が行われ、新しい教科書によって授業が行われています。児童が主体的に問問題解決学習に取り組みやすいように表記してある一方で、単元の構成や扱う器具も結構変更されています。先生方のより一層の教材研究と創意工夫が求められるところです。

結びに発刊にご尽力いただいた諸先生方に深く感謝申し上げますと共に、「理科教育のあゆみ」が多くの先生方に活用されますことを祈念して巻頭の挨拶とします。

